

論文審査の要旨

報告番号	甲 第 2602 号	氏 名	丸井 輝美
論文審査担当者	主査 門倉 光隆 教授 副査 三宅 康史 教授 副査 小風 暁 教授		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>近年多くの間接視型喉頭鏡が発売され、実際に臨床現場で用いられており、操作性が注目されている。直接視型喉頭鏡との比較研究が行われてきており、高い挿管成功率や挿管時間の短縮などの有用性が報告されているが、間接視型喉頭鏡間で操作性を比較した報告は少ない。そこで今回、3種類のチューブ誘導機能付き間接視型喉頭鏡 Airtraq®(ATQ)、Kingvision® (KV)、Airwayscope®(AWS)を全身麻酔導入時の気管挿管に使用し、挿管時間と声門の視野(Cormack/Lehane 分類)を比較検討した。</p> <p>気管挿管は全例1回目で成功し、歯牙や口腔内の損傷などの合併症の発生はなかった。挿管時間はKV群、AWS群で有意に短く、声門の視野はAWS群でもっとも良好だった。KVとAWSは、挿管時口腔内から声門までを連続して観察することができ、より確実に、迅速に機器の先端を声帯に到達させることができるため、声帯視認までの時間が早く、チューブの誘導もより速やかに行うことができたと考えた。また、喉頭蓋自体を挙上するという特徴によりAWSで良好な声門の視野が得られたと考えた。今回は挿管施行者を麻酔科認定医に限定したが、挿管経験の浅い研修医などを挿管施行者とした研究により喉頭鏡の操作性を検討する必要がある。</p> <p>本研究は3種類の間接視型喉頭鏡を臨床で比較検討し、操作性に関する新知見を示したものであり、学術上価値のあるものと判断した。</p> <p>論文題名：3種類のビデオ喉頭鏡 Airtraq®、Kingvision®、Airwayscope®の気管挿管の操作性の比較検討</p> <p>掲載雑誌名：昭和学会雑誌 74巻2号 2014年 掲載予定</p>			